

## 「たばこ規制枠組み条約」の成立過程と今後の運用方向性

ウスダ カン タマシロ ヒデヒコ コンノ ケイタ ヨウノ ヨウイチ  
白田 寛\* 玉城 英彦<sup>2\*</sup> 紺野 圭太<sup>2\*</sup> 河野 公一\*

公衆衛生史上初の国際条約となる「たばこ規制枠組み条約」(FCTC: Framework Convention on Tobacco Control) 最終案がスイス・ジュネーブの世界保健機関(WHO)で開催された加盟171か国による第6回政府間交渉委員会(INB6: 6<sup>th</sup> Intergovernmental Negotiating Body) 最終日の2003年2月28日に合意に達した。FCTCはその後5月に開催されたWHOの最高意思決定会議である第56回世界保健総会(WHA56: 56th World Health Assembly)で正式採択され、現在は署名・批准作業に入り9月29日現在で73か国と1団体が署名、2か国が批准している。日本政府は来年1月召集の通常国会での批准を予定している。

この国際条約作成を強力に推進してきた前WHO事務局長Brundtland氏は、今回の合意を「国際保健の歴史上画期的であり、世界の人々すべての健康にとって非常に大きな一歩である」と評価している。たばこ対策にかねてから強い関心を持っていたBrundtland氏は98年5月の事務局長就任演説で早々にたばこの有害性とたばこ対策の必要性を強く主張し、7月の正式就任直後にはWHOのたばこ対策本部である「たばこのない世界構想」(TFI: Tobacco Free Initiative)を組織、翌年のWHA52ではFCTC作成のためのINBと作業部会を発足させ、一期5年の在任期間中常にたばこ対策推進の先頭に立ってきた。Brundtland氏は事務局長を7月に退任しており、今回のFCTC原案合意は氏の任期5年(98~03年)の活動を締めくくる集大成とも言える。本稿ではこの国際条約が原案合意に至った経過を報告する。

**Key words:** 健康政策, 国際条約, たばこ規制, FCTC, WHO

---

\* 大阪医科大学衛生学衛生学公衆衛生学教室

<sup>2\*</sup> 北海道大学大学院医学研究科社会医学専攻  
予防医学講座老年保健医学分野  
連絡先: 569-8686 大阪府高槻市大学町2-7  
大阪医科大学衛生学衛生学公衆衛生学教室  
白田 寛